

令和6年度 学校経営方針

校長 堀内 厚子

I 学校教育目標

新しい時代を担う，知性と徳性を備えた，
人間性豊かで自立する子どもの育成
～探究心・表現力・協働・主体性～

II めざす学校像

1 明るく礼儀のある学校	(1) 明るい挨拶が行き交う学校 (2) 思いやりの気持ちが行き交う学校 (3) 感謝の気持ちが行き交う学校 (4) 温かい言葉が行き交う学校
2 一人一人の子どもが大切にされる学校	(1) 子どもの夢を育む学校 (2) 子どもの心を育む学校 (3) 子どもが学びを求める学校 (4) 子どもが元気に運動する学校
3 安全・安心で清潔な学校	(1) 危機管理について，十分な配慮のある学校 (2) 子どもの安全に対する配慮のある学校 (3) 学びの場にふさわしい環境が整えられた学校 (4) 登下校，下校後の生活への配慮のある学校
4 信頼される学校	(1) 進んで情報発信に努める学校 (2) 子ども，保護者，地域の声に耳を傾ける学校 (3) 参観から参加へ，協力から協働へ向かう学校 (4) 保護者との連絡を密にし，信頼で結ばれる学校

III めざす教師像

- 1 子どもの将来を見据え，一人一人の良さを伸ばそうとする教師（使命感・責任感）
- 2 カウンセリングマインドをもって，丁寧な言葉で指導する教師（児童理解）
- 3 研究心をもち，自らを高めようと学び続ける教師（専門性の向上）
- 4 他学年や地域と協働する教師（協働する力・調整力）

IV めざす児童像

- 1 探究心をもって学ぶ子（探究心・好奇心）【Challenge 粘り強さ】
 - ① 身の回りのことに，興味や関心を持つ姿
 - ② もっと知りたい，やってみたいという思いを持つ姿
 - ③ よくわからないことにも，方法を見つけて粘り強く取り組む姿
- 2 自分の思いを表現する子（表現力）【Concept 夢・目標】
 - ① 適切な言葉を選んで伝える姿
 - ② 自分の思いや考えを他者にわかりやすく伝える姿
 - ③ 挨拶を大切にし，他者と関わろうとする姿
- 3 他者と協力しあう子（協働する力）【Communication 協働】
 - ① 他者の意見をよく聞いて話し合いを行う姿
 - ② 目標達成に向けて他者と協力する姿
 - ③ 友達によさや違いを認める姿
- 4 自分で考えて行動する子（主体性）【Control 主体性】
 - ① 目標や課題を自ら考える姿
 - ② 自分で判断して決定し，行動する姿
 - ③ 失敗を恐れずにチャレンジする姿

V 経営の重点

1 中期目標（3年後に実現したいこと）

めざす児童像の実現に向け、
地域（社会）と連携・協働した教育課程を創る

学校教育目標の「知性」を「見出した問題の解決に向けて問い続け、対処する力」と捉えている。予測困難な時代を生き抜くためには必要な力であり、それを踏まえてめざす児童像（資質・能力）を今年度、前述のIVのように変更した。

社会で役立つ資質・能力の育成のためには、教科書で学ぶだけでなく、地域や社会とのつながりから学ぶ必要がある。そこで、学校教育目標の実現に向け、資質・能力の育成を踏まえた地域や社会と連携・協働した教育課程を創ることを中期目標とした。（お膳立てされた体験ありきで終わることのないように。）

2 重点目標（令和6年度末に実現すること）

生活科・総合的な学習の時間を核とした教育課程を創る

昨年度は、「地域と連携・協力した教育活動の推進～豊かな学びのための体験活動を生かして～」を重点目標とし、コロナウイルス感染症によって途絶えてしまった地域とのつながりを復活させ、各学年が生活科や総合的な学習の時間、社会科等で様々な体験活動を展開した。実際に見る・触れる・聞く等の体験をし、地域の方だからこそ知っている本物の話を聞いて、興味や関心が広がったり、何らかの気づきや考えをもったり、解決に向けて行動にうつそうとしたりする児童の姿が見られた。

今年度は、昨年度の成果を生かして「生活科・総合的な学習の時間を軸とした教育課程を創る」を重点目標とした。生活科も総合的な学習の時間も、日常の中に課題（興味や関心の対象）を見つけ、その課題を体験や活動をとおして解決する学習であり、これからの時代においてますます重要な役割を果たすものである。各教科等において基礎的・基本的な知識や技能が身に付いている中原小の子どもだからこそ、各教科等の授業について生活科・総合的な学習の時間を核とした中原小ならではの教育課程（カリキュラム）を創り、めざす児童の育成に向けて取り組んでいきたい。

V 具体的な取り組み

1 めざす児童像（身に付けさせる資質・能力）を意識した教育活動を創る

①問い（教師：発問、児童：疑問）を大切にし、対話を生み出す授業をつくる。

（教師は問をつなぐファシリテーターとなる。）

②各教科等の学びを他教科や生活に活かす学びとなる授業を目指す。

（教科横断的な学び、振り返りを大切にした授業）

③地域（外部）人材や地域の環境を活用した授業を計画、実践する。

④実感が伴った体験的な学びを重視するとともに、学校図書館やICTを積極的に活用する。

⑤幼保こ小中連携の強化。特に、近隣の中学校と学校や地域の課題を共有し、課題解決に向けた活動を行う。

⑥創立50周年に際し、児童自らが学校や地域をよりよくするために何ができるか考え、実践できるようにする。

2 児童が安心して学ぶための教育環境を創る

- ①「教科担任制（6年）」や「巡回型授業（5年）」の導入，担任外教職員との関わり等，複数の目で多面的に児童理解を図る。
- ②温かい言葉が飛び交い，多様性を認め合う学級集団をつくる。
(教師の言動も大切な教育環境)
- ③発達段階に即したキャリア教育の推進。
(自己肯定感の育成とキャリアパスポートの効果的な活用)
- ④個のニーズに応じた学習指導と環境整備。
(特別支援教育コーディネーターや通級指導教室担当者，教育相談担当者との連携)
- ⑤情報モラル教育の推進。(情報を正しく安全に利用できるようにする。)
- ⑥規範意識の醸成。(「中原小スタンダード」を基に，全校で取り組む。)
- ⑦教師の危機管理意識の高揚と児童の危険回避能力の育成。

3 生活科・総合的な学習の時間を核とした教育課程を創る

- ①児童や地域の実態に即した，探究的な学びとなる総合的な学習の時間の単元を創る。
- ②各教科等の学びを生活科や総合的な学習の時間に活用・関連させ，中原小ならではの教育課程を創る。
- ③教務主任（総合主任）をリーダーとしたプロジェクトチームを立ち上げ，検討を図る。

学校教育目標達成に向けたキーワード



探 究